トイレで困っている人のため、街中に「おもいやりの花」を咲かせませんか？

街中のトイレをもっとオープンに ―――

Open Toilet Project

オープントイレプロジェクト

オープントイレプロジェクトとは…**トイレに困っている方々へ、トイレの貸出しが可能な店舗や施設の情報を発信・共有し、誰もが暮らしやすい街づくりを進めていくプロジェクトです。**

なぜオープントイレプロジェクトが必要なの？

今、日本では多くの人が外出時トイレのことで困っています（下表参照）。高齢者や障がい者の人たちは、友達と食事に出かけたり、ショッピングや散歩に出かけたりしても近くにトイレがあるか確認できないと、楽しく過ごすことができません。
特に、元町、中華街、山下地域には、多くの方々が観光に訪れますが、誰でも使えるトイレがとても少ないのが現状です。
みんなでオープントイレプロジェクトに取り組み、誰もが安心して観光できる街をつくりませんか？

障がい者	1歳未満の乳児	オストメイトの人
約176万人	約107万人	推定15万人
車椅子を使っている人を含めた肢体障がい者	オムツが必要なお子様がいらっしゃる親御さん（1歳未満の乳児）	腹部などに排泄のための人工肛門・人工膀胱を造設した方。

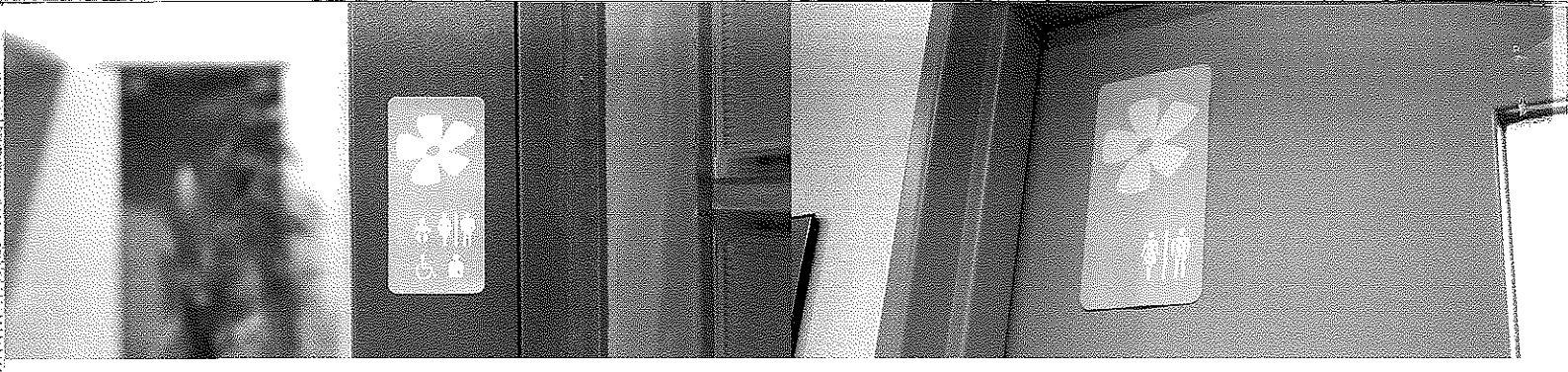
「トイレに困った！」みんなの声

自分が車いすで
普通のトイレが使えず
手すり付き洋式トイレ
しか使えない。

知らない土地に
旅行へ行った時、
オストメイトが
どこにあるか、
わからなく困る。

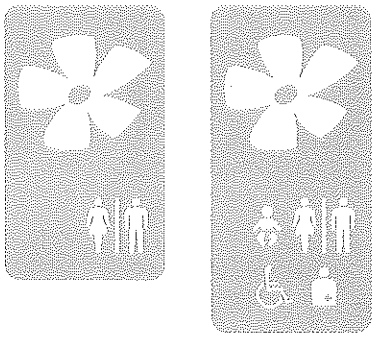
出かける時に、
オムツ換えできる
トイレのある建物を
簡単にリサーチしていく。

引用：All About「外出先トイレでパパはここに困っている！」
http://allabout.co.jp/gm/gc/42479/



賛同店舗の入り口にステッカーの貼付

プロジェクトに賛同いただいた店舗や施設の入り口に、トイレを貸し出していることを伝えるステッカーを貼り付けます。トイレ利用者は、街を歩きながら、多機能トイレや一般のトイレの貸し出しをしている店舗を見つけることができます。



貼り付けていただくステッカー（一部）
©NDC Graphics + NPO Check + Ohkawa Printing Inc.

WEBサイトやアプリケーションなどで情報発信

トイレの情報をWEBサイト「Check a toilet」で発信します。また多機能トイレの情報をスマートフォンのアプリケーション（Check a Toilet forシリーズ）や、google map、NAVITIME に掲載します。

iPhoneApp による検索の様子

オープントイレプロジェクトに賛同する店舗にメリットはありますか？

WEB サイトやスマートフォンアプリケーションにお店の位置情報を掲載することで新しいお客様の獲得につながります。

トイレを貸し出すことにより「ついで買い」をするお客様が増え、売り上げ増加が見込まれます。

トイレを貸し出すという地域貢献に取り組んでいる企業として PR が可能です。

※オープントイレプロジェクトは平成 23 年度横浜観光プロモーション認定事業です。
これから、元町の近沢レース店様や、山下町の横浜マリンタワー様にもご賛同いただき、プロジェクトをスタートします。

オープントイレプロジェクトは NPO法人Checkと株式会社大川印刷が協働で進めています。
お気軽に問い合わせください。

ご質問・お問い合せは

株式会社大川印刷
http://www.ohkawa-inc.co.jp/

TEL：045-441-2011
住　所：〒 220-0011 横浜市西区高島 2-14-12 横浜ジャスト 2 号館 3F
E-mail：saito-y@ohkawa-inc.co.jp
担　当：斉藤

本業を通した社会貢献に取り組み、食物アレルギーや宗教上の食の規制に関わらず、誰もが安心して外食できるようにするための絵文字「食材ピクトグラム」を 2010 年 APEC で導入。

協働 NPO 法人

Check
特定非営利活動法人チェック

http://www.checkatoilet.com/

2010 年の横浜観光プロモーションフォーラム認定事業の一環で、横浜観光トイレマップを制作。

VOC FREE™

ミックス 責任ある木質資源を使用しています FSC® C009309

FSC® 森林認証紙にノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）で印刷しています。また、読みやすさに配慮したフォントを使用しています。

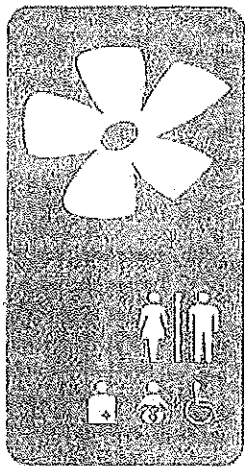
赤ちゃん連れらへ一気軽にどうぞ

トイレ貸します―。

店頭に共通サイン「多機能」増え、横浜で試み

お店のトイレ貸します―。赤ちゃん連れや障害者の観光客が店舗にある多機能トイレを気軽に借りられるようにするプロジェクトが、横浜で始まった。店舗前におしゃれな共通のサインを掲示することで、さりげなくアピールするという趣向。利用者からは「今までありそうでなかった」と好評で、賛同する店舗側は「来店促進につながる」と期待感が高まっている。

（三木　崇）



トイレ貸し出しサイン「オープントイレマーク」©NDC Graphics+NPO Check+Ohkawa Inc.

トイレ貸し出しサイン「オープントイレマーク」を考案したのは、多機能トイレ情報を共有するサービス「チェック・ア・トイレット」を展開するNPO法人チェック（東京都世田谷区）の金子健二代表理事と、老舗印刷会社の大川印刷（横浜市戸塚区）の大川哲郎社長。

オムツ替えができるベビーシートや車いす対応機能などを備えた多機能トイレは、導入する店舗が増えているものの、知られていないために活用されていないケースが多くあるという。特に横浜中心部に観光に訪れる障害者や子ども連れにとっては、トイレの場所が分からないことが悩みの種となっていた。

気軽にトイレを借りるために、誰にも分かりやすいマークを新たに作ろう―。さまざまな標識などを手掛けてきたNDCグラフィックスに制作を依頼。完成したマークは「安全地帯」を意味する淡い緑色の背景に、真っ白な花のマークが描かれた。登山者が用を足すときに言う「花摘みに行く」をサイン化したという。

「オープントイレマーク」を入り口に貼る金子さん（右端）と大川さん（左端）＝横浜マリンタワー

オストメイト（人工肛門・人工膀胱保有者）対応などトイレの機能によって、さまざまなバージョンの400枚を作成。賛同店舗はネット上の「チェック・ア・トイレット」の地図にも掲載する。

このプロジェクトは、本年度の横浜観光プロモーション認定事業に選ばれ、元町、中華街、山下地区で先行的にスタート。既に9店舗から賛同を得た。来年3月末まで無償で提供することで100店舗を目指す。来年度以降は1枚800円で提供する。

横浜マリンタワーの永田弦総支配人は「改装後はバリアフリー対応を進めており、多機能トイレの存在を知ってもらうことで大勢の方に訪れてほしい」と期待。車いす利用者でNPO法人「アニミ」理事長の服部一弘さんは「事故に遭ってから25年がたつが、このアイデアはありそうでなかったね」と喜んでいる。

2011年（平成23年）11月29日（火）　神奈川新聞朝刊